



国際通貨研究所メールマガジン (第 14 号 2013/5/14 発行)



Institute for International Monetary Affairs (IIMA)



<http://www.iima.or.jp/>

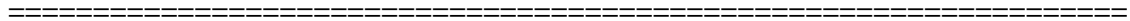


※本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから→<http://get.adobe.com/jp/reader/>



1. 理事長 行天豊雄のコラム 『アベノミックス国際コンクール』

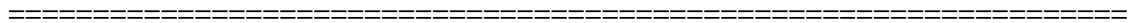
アベノミックスのお蔭で久しぶりに日本発の話題が世界をにぎわしている。しかし、あちこちの国を廻って話を聞いていると、その反響にはかなり差があって面白い。

まず 80%共通しているのは「驚き」である。今迄、外圧がない限り…

(株式会社マネーパートナーズへの寄稿)

(全文はこちらから)

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/gyoten20130514.pdf>



～iima en フォーラム 2012 年度 ベストコメント賞受賞者寄稿～

2. 龍谷大学 経済学部 教授 IIMA 上席客員研究員

村瀬哲司のコラム 『中国の監視・管理癖』

2005 年 7 月人民元は、固定相場から管理変動相場に移行した。実は私は、その数ヶ月前からレジーム変更は近いと予感していた。3 月完成間近の中国外貨取引センター (CFETS) の本部施設を見学する機会があり、中央コントロー…

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

(全文はこちらから)

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/murase20130514.pdf>

■ 今月の新着レポート

1. 「限界に近づくアルゼンチンのポピュリズム政策」

アルゼンチンは20%を超えるインフレを10%程度と強弁し、様々な分野での規制、突然の企業国有化などにより国際的信用を失いつつある。だが1990年代を振り返れば、アルゼンチンはいち早くインフレを克服し、経済改革を進めた優等生であった。そのアルゼンチンが変わっていった原因はどこにあり、いつが転換点だったのか。90年代以降の同国の軌跡を振り返ってみる。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_12_j.pdf

2. 「人民元国際化の鍵となる資本自由化と金融改革」

人民元国際化は今のところ順調に進んでいる。これと関係する資本自由化について、中国当局は当面は人民元の資本取引について、その後外貨の資本取引についてと順を追って慎重に規制緩和を図ってゆく意向と考えられる。また、資本自由化に当って国内の金融改革は避けて通れないが、それには既得権益層の抵抗も予想される。今後、場合によっては、金融改革、資本自由化の遅れによる人民元国際化の鈍化や一時的棚上げもあり得る。

http://www.iima.or.jp/Docs/report/2013/no1_2013.pdf

3. 「膨らむアルゼンチン経済の矛盾」

長年にわたる高インフレとインフレ統計の「操作」は、アルゼンチン政府の信用を損なっているばかりでなく、様々な歪みをもたらしている。政府は派生する問題に対し、対症的な対処を繰り返すのみで、抜本的なインフレ対策をとっていない。遠くない将来、アルゼンチンは再び通貨の大幅下落に見舞われる懸念が浮上してきた。

<http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2013/234.pdf>

4. 「格付会社をめぐる国際的議論の展開と日本の格付会社登録制度
～アジアには日本の経験が参考になるか～」

信用格付は重要な金融インフラの一部である。2007-2008年のグローバル金融危機時には、格付の急激な変更等が危機を深刻化させる一因となったとの反省から、格付会社のビジネスや規制のあり方をめぐる国際的議論が活発化した。日本では、この議論を受ける形で2010年に格付会社登録制度が開始された。こうした日本の経験のアジアへの示唆を探る。

<http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2013/233.pdf>

■ 今月の IIMA

ゴールデン・ウィークも過ぎ、IIMAの新年度の調査・研究活動もいよいよ本格的に動き出しているところです。

IIMA各研究員のアサインメントは、外部からの受託調査のテーマとの関連もあり、アジア、中南米などの新興国経済・金融に関する調査・研究が中心となっています。もっとも、急激な変化を示す円相場、アベノミクスの行方、不安定な状態が続く欧州情勢などについても情報ニーズは高く、無視できません。

こうした調査・研究の成果については、今後も順次ホームページにて公表していく予定です。3月に実施したIIMAシンポジウムの内容についても、近くオケージョナルペーパー（和文・英文）として掲載の予定です。どうぞご期待下さい。

次号：2013年6月11日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

◇発行◇+++++

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

+++++ Copyright(C) IIMA All Rights Reserved.+++++